

○人口の推移 (昭和46・47年は10月1日推計人口) (その他は国勢調査人口)

年次	世帯数	人口	総人口	男	女	一世帯当たり人口	人口密度	人口指数
大正九年	二、二五一	一一、九二九	五、八二六	六、一一三	五・三	二二四	一〇〇	一〇〇
昭和一〇	三、三六七	一一、七八四	六、六〇三	六、六〇三	五・四	二四三	一〇三	一〇三
昭和二五	三、〇一六	一六、二八四	六、六六五	五・四	二四〇	三〇六	一〇七	一一七
昭和三〇	二、九七八	一六、二九八	七、七八七	五・五	三〇六	二九四	一一三	一二七
昭和三五	三、一六一	一六、二二二	七、七二二	五・一	二九四	二八八	一一三	一二七
昭和四〇	三、三八〇	一五、八七八	七、四三二	八、四四六	四・七	二八八	一一三	一二七
昭和四五	三、六五二	一六、二五三	七、五三五	八、七七八	四・五	二九五	一一三	一二七
昭和四六	三、七九一	一六、六八九	七、八七一	八、八七二	四・四	三〇三	一一四	一二七
昭和四七	三、八九五	一六、八八九	七、九〇五	八、九八四	四・三	三〇六	一一四	一二七

○地区別人口と世帯数 昭和47・10・1現在

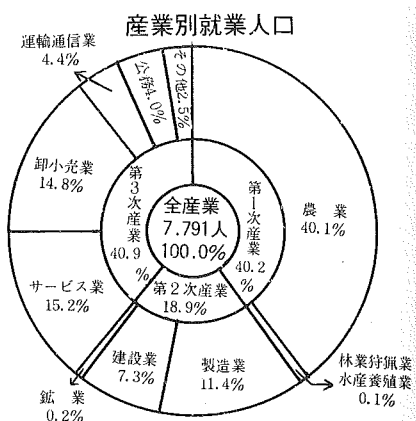
地区別	世帯数	人口		一世帯当たり人口	人口密度	四〇年人口に対する比
		総人口	男女			
総数	三、八九五	一六、八八九	七、九〇五	八、九八四	四・三	三〇六
松梅	四四三	二、〇三六	九五五	一、〇八一	四・六	八二
川上	一、三八四	六、七〇三	三、〇九八	三、六〇五	四・八	九九・〇
春日	二、〇六八	八、一五〇	三、八五二	四、二九八	三・九	七三・八

## 二、人口

昭和三十年の三村合併当時一六二九八人その後ほとんど横ばい状態であったが、近時幾らかずつ増加の傾向を示している。これは佐賀市のベッドタウンとしての住宅の建設によるものと思われ、この傾向は今後も続くであろう。産業別による就業人口は第一次産業が減少し、第二次、第三次産業が次第に増加している。

## 三、町の生い立ち

大和町は歴史的遺産の多い所である。遠くは三千年の昔にさかのぼる縄文時代や弥生時代の石器や土器が発掘され、昭和二十四年の水害復旧工事で偶然発見された久留間の弥生時代遺跡など二千年前の後の生活環境と当時の様相を伝える古代遺跡として貴重な資料であった。弥生時代に続いておよそ千五百年前の五世紀ごろできたといわれる船塚は、佐賀県一を誇る雄大美麗な前方後円古墳で、ここに葬られている豪族は大和朝廷と関係を持つ地方随一の権力者であった。



あつたろうといわれている。七世紀の始めごろ造られた小古墳は山脈の南麓に数多並んでいたが、柑橘園開拓のため取り除かれ今はわずかに数基を残しているのみである。

大化の改新によって国府が置かれるようになり、肥前国(佐賀県、長崎県の大部分)の国府はわが大和町久池井付近に置かれ、行政・防衛の中心地として重要な地点を占めた。国府の長である国司の中には遣唐使中有名人の一人である吉備真備や大江山の酒天童子退治で平安時代の快男子とつたわれた源頼光などもわが大和町に住んでいた。

奈良時代には大願寺が建ち、官寺として国分僧寺、国分尼寺が建立され、いずれも国の平穏と五穀豊